

# 「ガイドス 線形代数」正誤表

初刷の正誤表 (2024年7月24日)

頁	場所	誤	正
p4	例題 1.1 2行目	$\theta = \angle POQ$	$\theta = \angle QOP$
p4	例題 1.1 の解答のすぐあと	$\angle POQ$ というとき, OQ から OP に向かい	$\angle QOP$ というとき, OP から OQ に向かい
p36	14行目	順に 3 次基本ベクトル $e_1, e_2, e_3$ に一致する	順に 3 次基本ベクトル $e_1, e_2, e_3$ になる
p86	定義 4.2 のすぐあと	$n^2$ 次 (斉次) 多項式	$n$ 次 (斉次) 多項式
p97	定理 4.23 のすぐあと	クラメールの公式と呼ぶ.	クラメールの公式 (G. Cramer (スイス 数学者, 1704-1752) による) と呼ぶ.
p115	下から 3 行目	$w = {}^t[1, 1, 1, -2]$	$w = {}^t[1, 1, 1, -2]$
p121	脚注 5) 1行目	この不等式を $-\ x\  \cdot \ y\  \leq (x, y) \leq \ x\  \cdot \ y\ $ と表すこともできる.	削除
p122	注意 6.6 5行目	2 辺の長さの和が他の 1 辺の長さを超えない	1 辺の長さが他の 2 辺の長さの和を超えない
p129	問 6.22 のすぐ前	正規行列にはどのようなものがあるか	正規行列にはどのようなものがあるか
p143	例 7.8 2行目	$x^2 + xy + y^2 + 8x - y = 0$	$x^2 + 2xy + y^2 + 8x - y = 0$
p146	命題 7.10 の 3 行上	この $\tilde{P}$ は対称行列ではない	この $\tilde{P}$ は直交行列ではない
p151	式 (7.19)	$a_1x^2 + a_2y^2 + a_3z^2$	$a_1x^2 + a_2y^2 + a_3z^2 + 2f_{12}xy + 2f_{23}yz + 2f_{31}zx$
p153	グレーの網かけ (I)-(VI) の下 4 行目	$x'y'$ -平面上の直線 $2\delta y' + 2\eta z' = 0$	$y'z'$ -平面上の直線 $2\delta y' + 2\eta z' = 0$
p153	グレーの網かけ (I)-(VI) の下 7 行目	与えられた 2 次曲面のどんな図形かを知るのに	与えられた 2 次曲面がどんな図形かを知るのに
p153	グレーの網かけ (I)-(VI) の下 12 行目	結論として, 与えられた 2 次曲面の図形は	結論として, 与えられた 2 次曲面の図形は
p158	リード 4 行目	従ってこれが最も簡単な形なのである	従ってこれがこの方法で得られる「最も簡単な形」なのである
p160	下から 7 行目	$A$ は対角可能	$A$ は対角化可能
p166	下から 3 行目	$v_1, w \in W_{-1}^{(0)} (= V_{-1})$	$v_1, w \in W_{-1}^{(1)} (= V_{-1})$
p168	3 行目	(2) 各固有値の $\alpha$ に対し	(2) 各固有値 $\alpha$ に対し
p169	下から 2 行目	前の行「ある $s > 0$ に対し」に続いて, 等式 $W_0^{(s)} = \mathbb{C}^n$ から始まるディスプレイ	ディスプレイにせず, 地の文として前に続ける

頁	場所	誤	正
p170	定理 8.16 (ジョルダン分解) の冒頭	正方行列 $A$ は, 互いに可換な対角行列 $S$ とベキ零行列 $N$	正方行列 $A$ は, 互いに可換である, 対角化可能な行列 $S$ とベキ零行列 $N$
p170	定理 8.16 (ジョルダン分解) の 4 行目	$S$ と $N$ が可換とは	ここで, $S$ と $N$ が可換であるとは
p171	問 8.18 (2) の冒頭	$A$ が, 互いに可換な対角行列 $S$ とベキ零行列 $N$	$A$ が, 互いに可換である, 対角化可能な行列 $S$ とベキ零行列 $N$
p177	注意 9.9 3 行目	(B2) によりそのスカラー 0 による乗法 $0w$ は	(B3) によりそのスカラー 0 による乗法 $0w$ は
p185	式 (9.3) の左辺	$[f(v_1) f(v_2) \cdots f(v_n)]$	$[f(v_1) f(v_2) \cdots f(v_n)]$
p186	例題 9.32 の解答 6 行目の等式および式 (9.6) の左辺	$[f(v_1) f(v_2) \cdots f(v_n)]$	$[f(v_1) f(v_2) \cdots f(v_n)]$
目次 p187	9.4 節見出し	商空間と同形定理	商空間と同型定理
p187	下から 2 行目	$V$ の元全体 $v + W$ で表す	$V$ の元全体を $v + W$ で表す
p188	注意 9.35	先に $V/W$ は $V$ において「 $W$ の元をすべて零元と見なしてできる」と言ったのは上記の (2) による	先に, $V/W$ は $V$ において「 $W$ の元をすべて零元と見なしてできる」と言ったのは, 上記の (2) による
p189	注意 9.38 4 行目	相対的關係より鮮明に	相対的關係をより鮮明に
p190	注意 9.40 1 行目	$\tilde{f}$ の像を $Z$ のままにして	$\tilde{f}$ の値域を $Z$ のままにして